

2025 年度 就職先アンケート 実施報告

1. 調査概要

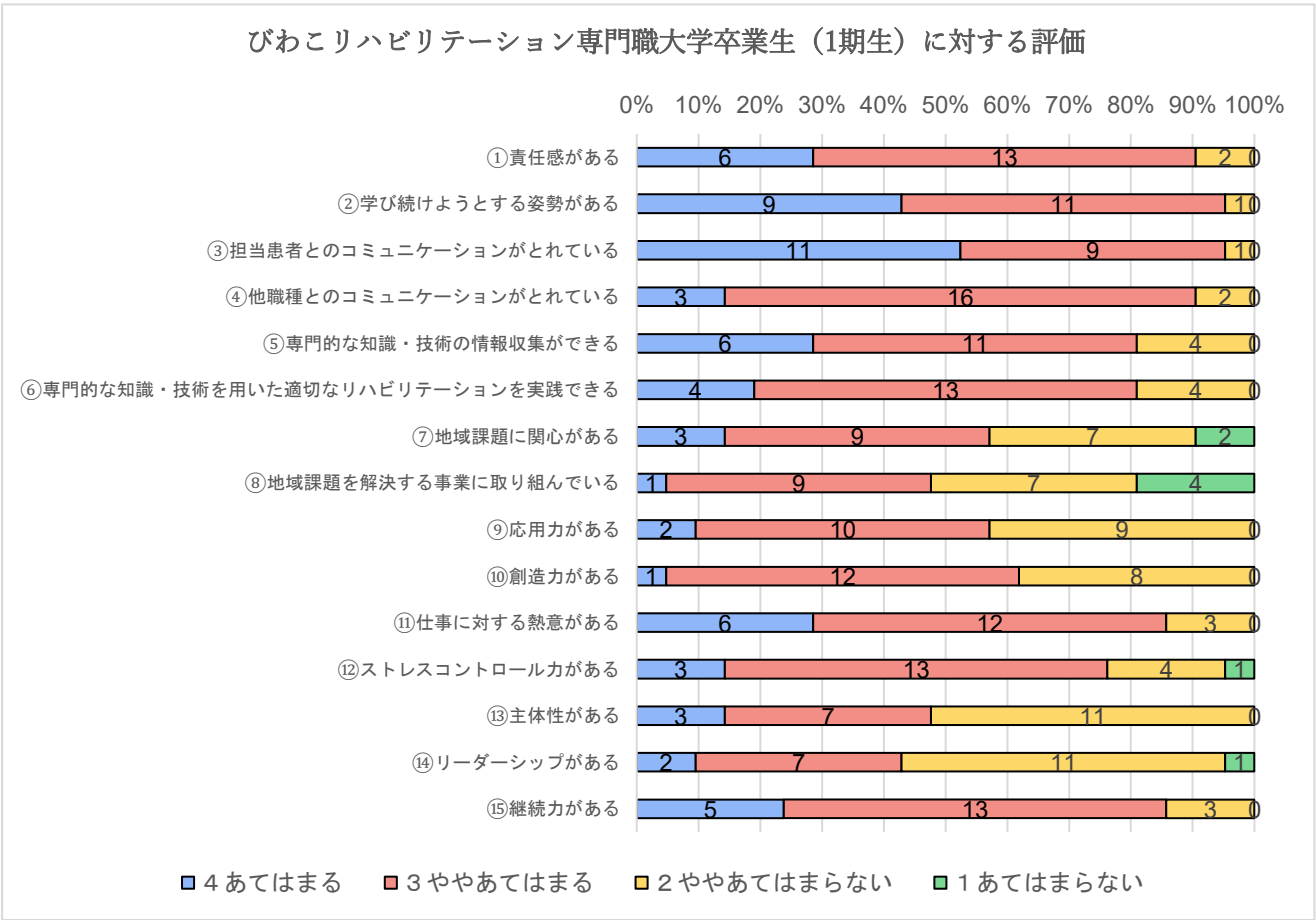
- 1) 調査目的：本学卒業生に対する評価・ニーズを把握し、教育・学生支援等の改善・向上を図る。
- 2) 調査対象：2023 年度卒業生（1 期生）の就職先 32 施設
（理学療法士・作業療法士として就職した施設に限る）
- 3) 調査期間：2025 年 7 月 20 日（日）～2025 年 8 月 31 日（日）
- 4) 調査方法：アンケート依頼は郵送、回答は GoogleForms を用い、オンラインで実施した。

2. アンケート結果概要

- 1) 回答率：対象施設数…32 有効回答数…21 回答率…65.6%
- 2) 回答結果
（質問 1）2024 年 4 月に入職した本学卒業生の現在の状況についてお答えください。

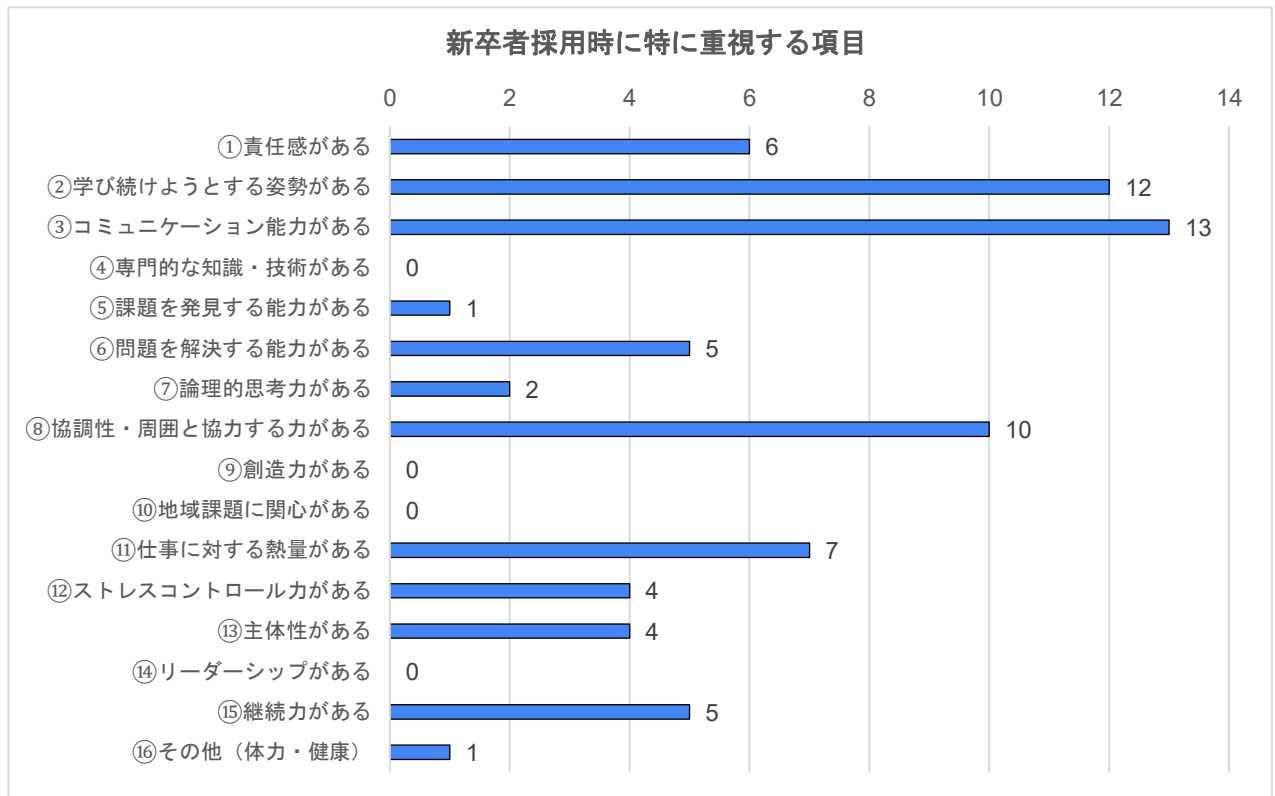
現在の状況	理学療法士	作業療法士
在職	21 名	3 名
退職	0 名	0 名
退職予定	1 名	0 名

- （質問 2）次の①～⑮の項目について、貴院（貴施設）で働く本学卒業生をどのように評価しますか。
回答時点での評価を 4 段階でお答えください。
※本学卒業生が複数在職している場合は、全体的な印象で回答してください。



(質問3) 次の項目のうち、貴院（貴施設）が新卒者の採用時に特に重視するものを3つ選択してください。

※本学の卒業生に限らず、新卒者全体について採用時に重視する項目を選択してください。



(質問4) 本学卒業生についてのご意見・大学への要望等がございましたら、ご記入ください。

- 多忙にもかかわらず、一人一人に対して向き合う姿勢は評価している。
- 真面目に患者に向き合ってくれている印象がある。自分ができることをしっかりしようと思っている卒業生に良い刺激をもらっている。
- 入職した卒業生も実習生に刺激を受けている。
- アンケート対象の卒業生は、2025年7月に退職予定である。

3. 結果の分析

○ (質問2) について

- ・コミュニケーションに関する項目（③④）等、個人で努力できる部分では高い評価を得られている一方で、臨床2年目で地域課題に取り組む場面は少なく、それに関連する項目（⑦⑧）の評価が低くなるのは仕方ない。
- ・同様に経験が浅い中では発揮することが難しい項目（⑨⑩⑬⑭）についても、今後に期待したい。
- ・下記の表に示した通り、項目①～⑩は本学リハビリテーション学部が掲げるディプロマポリシーと関連付けた項目となっている。①～⑥の項目では、いずれも「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した施設が80%を上回っており、ディプロマポリシー1～3について高く評価されていると言えるが、⑦～⑩の項目では、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した施設はおよそ50%

～60%程度であり、ディプロマポリシー4～5については、十分な達成度とは言えなかった。
ただし、在職期間を考慮すると、入職2年目の理学療法士・作業療法士像として概ねふさわしい
学生を送り出していると評価されていると言える。

※（質問2）の各項目とリハビリテーション学部ディプロマポリシーとの関連

項目	関連するディプロマポリシー
①責任感がある ②学び続けようとする姿勢がある	【DP1】 生命の尊厳と職業倫理を備え、幅広い教養を有し、リハビリテーション専門職としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる。
③担当患者とのコミュニケーションがとれている ④他職種とのコミュニケーションがとれている	【DP2】 地域住民や他職種と円滑なコミュニケーションをとることができ、信頼関係を築くことができる。
⑤専門的な知識・技術の情報収集ができる ⑥専門的な知識・技術を用いた適切なリハビリテーションを実践できる	【DP3】 理論に裏付けられた知識と技術を有し、適切なリハビリテーションを実践することができる。
⑦地域課題に関心がある ⑧地域課題を解決する事業に取り組んでいる	【DP4】 地域及び地域住民が抱える課題を発見することができ、解決するための方法を論理的に考案することができる。
⑨応用力がある ⑩創造力がある	【DP5】 専攻分野に関連する他分野について学ぶことで応用力を高め、多職種と連携し理学療法士・作業療法士の新たな展開を創造することができる。
⑪仕事に対する熱意がある ⑫ストレスコントロール力がある ⑬主体性がある ⑭リーダーシップがある ⑮継続力がある	なし

○（質問3）について

・多くの施設が新卒者に求めているものは「コミュニケーション能力」「学び続けようとする姿勢」「協調性」であり、「専門的な知識・技術」という回答0件であったが、その一方で（質問2）の専門的な知識・技術に関する項目（⑤⑥）では「あてはまる」「ややあてはまる」が80%を超えており、本学の学生については専門的な知識・技術も一定程度の評価がされていると言える。